

Field Experience × Life

農ある暮らし

畑から、食卓まで。

それぞれが考えた、私と農のかかわりかた

彩の国  埼玉県

発行：埼玉県農林部農業ビジネス支援課

埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

TEL 048-830-4093 FAX 048-830-4830



埼玉県農業
「ロ」
「ス」
「ト」
「ン」
「」
「あ」
「ら」
「ま」
「ち」

畑から、食卓まで。 それぞれが考えた、私と農のかかわりかた

農ある暮らしというと、あなたはどんな暮らしを想像しますか？

"自然豊かな場所で、動物や植物に囲まれながらのびのびと暮らす"
なんてイメージは分かりやすいかもしれません。

そんな暮らし方が誰でも出来る訳じゃないですね。
でも、農ある暮らしは実はもっと身近にあるのではと思っています。

畑で作物を育てることはもちろん、
農家の想いを伝えることも、農場と人をつなげることも、
地域にある農地をいかすことも、農のあるロケーションを守ることも、
もっと言えば、畑の採れたて野菜を食べることも、
どれも農ある暮らしなんです。

農との関わりかたに、きっと正解はありません。
だからこそ、自分自身がやりたいこと、できることから
農に繋がるものをひとつ見つけることが、
農ある暮らしの第一歩なのかもしれません。

Contents

Case.01 | ①畑 仕事体験サービス × ②農 家民宿

03

Case.02 | ③ウ エディングフォト × ④梅 農家

05

Case.03 | ⑤農 泊体験キャンプ × ⑥地 元野菜

07

Case.04 | ⑦麦 づくり × ⑧コ ミュニティ

09

Case.05 | ⑨地 元産 × ⑩持 続可能な仕組み

09



畑 仕事体験サービス × 農 家民宿

畑仕事を通して、人にも地球にも優しい食と農の大切さに触れてほしい

「農家さんのもとを訪ねた時に、こんなにも手間暇かかる作業をしているんだ！と驚きました。でも、その手間暇に対する価値ってどれくらいの人に届いているのかなという想いも芽生えたんです。」人にも地球にも優しいサステナブルな食を作ってくれる農家さんの力になりたい”そんな想いから、プチファーマーズは生まれた。

畑仕事は地味な作業も多く、何より体力勝負だ。それでも、畑の中で1日汗を流したあとの疲労感は、何ものにも変えがたい満足感もある。1日の畑作業を通して知れることはそう多くはないが、土や農に触れることから食の豊かさを感じてもらおう。それこそが、プチファーマーズが目指す未来へ繋がるのだらう。



埼玉県比企地域

ときがわ町を含む比企地域は、豊かな自然と清流に囲まれた田園風景が広がる。近年は農やまちづくりをテーマに移住する人々も増えている。



田島遥菜さん
PETIT FARMERS(プチファーマーズ)

人材採用コンサルや学生インターンを支援する会社などを経て、デンマークへ留学し、食の安全性やオーガニックに興味をもつ。帰国後、人にも地球にも優しいサステナブルな食を極めるべく、農家のもとを訪ねる中で金子さんと出会い、PETIT FARMERS(プチファーマーズ)を立ち上げる。

Field Experience
Farm House



金子勝彦さん
農家民宿「楽屋」

2015年にときがわ町へ移住し、農家民宿「楽屋」をオープン。有機農家として野菜を出荷しながら、自給自足の農ある暮らしに触れられる宿として様々な体験を提供している。



ウエディングフォト × 梅農家

農場の魅力、農家さんの想いを、ひとりでも多くの人に伝えたい

何の変哲もない農場も、最高のロケーションに変えることができる。カメラマン、ヘアメイク、衣装、装飾、すべてプロフェッショナルな人たちを農場に揃え、ここでしか体験できないフォトウェディングをプロデュースする水川瞳さんは、農の可能性を感じている。

「農家さんのものを巡る中で、自分にできることは何だろうって。異業種だからこそ気付ける農の魅力や面白さ、農家さんの人柄や想いを伝えることで、農と人を繋ぐ架け橋になれたらいいな。」食べること、綺麗になること、健康になること。農と掛け合わせることで、その全てがオリジナル体験になり、水川さんの原動力にも繋がっている。



埼玉県越生町

埼玉県のほぼ中央、関東平野と秩父山地のさわに位置する越生町は、毎年2月ごろになると梅の花が咲き誇る『越生梅林』で有名な町。



水川瞳さん
FARM WEDDING主宰

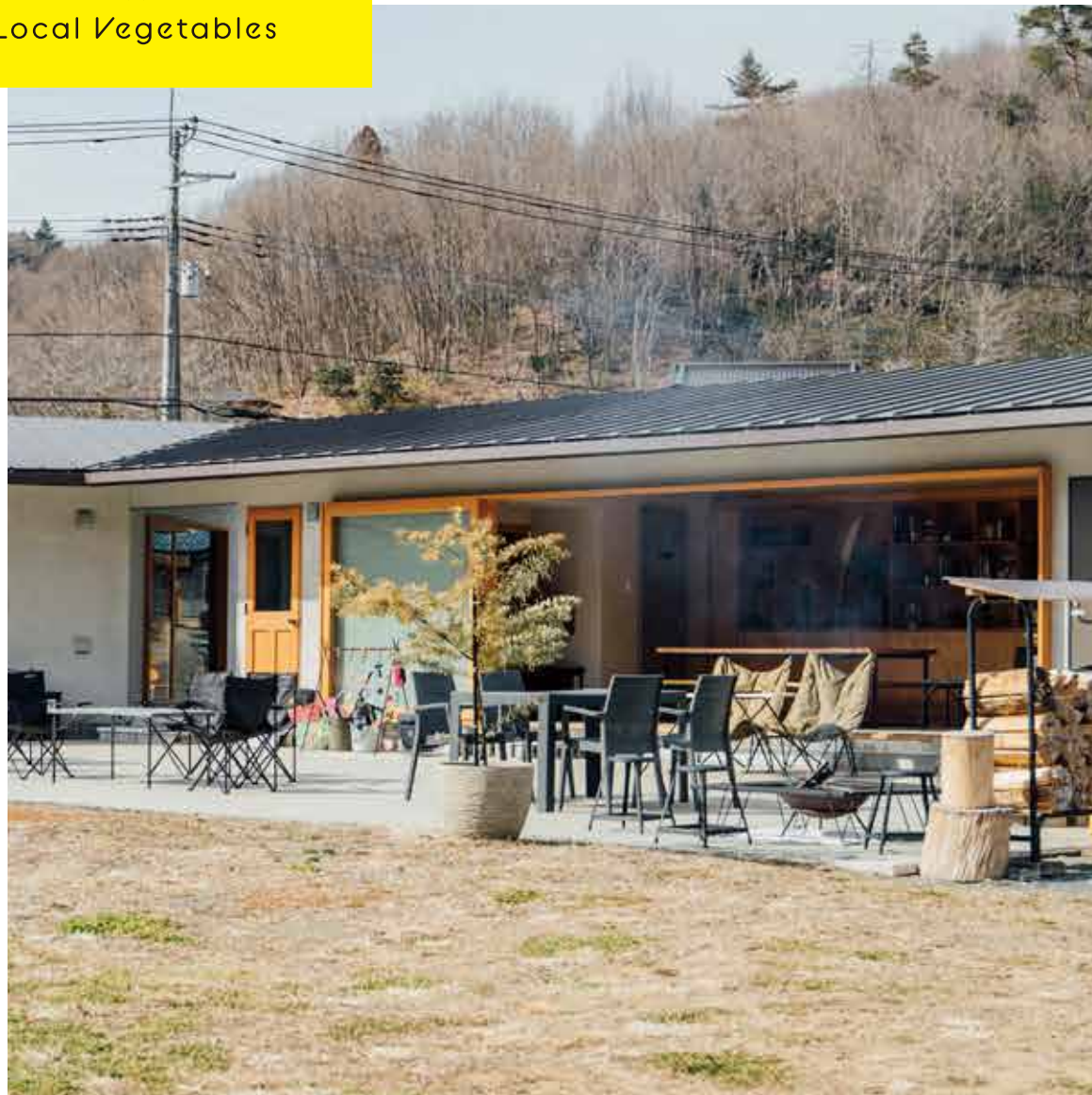
モデルとして活動する中で、自身の体調変化から食の大切さに気づき、農家さんの現場や想いを伝えるため『埼玉農業かってに応援プロジェクト』を立ち上げ、YouTubeにて発信。山口農園へ不定期に通い農作業を学びながら、毎週金曜日には『ひとみ喫茶』も運営している。

Wedding Photo
Agriculture



山口由美さん
山口農園

越生町で代々続く梅農家『山口農園』を継いだ山口由美さんは、6次産業化に取り組みながら、納屋を改装したシェアキッチン「梅凜カフェ」も運営。農に関わりたい人々を受け入れている。



撮影協力: 秩父市移住相談センター

農 泊体験キャンプ × 地 元野菜

農は生活の一部でもありエンターテイメントでもある

開放感ある敷地に一際おしゃれに佇むカフェ兼プライベートキャンプ場『KEiNA CHICHIBU』。ここを運営する今山さんは、東京と秩父を行き来する二拠点生活を実践中。「秩父の自然に染まり、その自然を食べる」のコンセプト通り、地元で穫れた新鮮な野菜や山の幸がいただける。「農業ってクリエイティブなんです。野菜は作り方も食べ方も無限大。KEiNAで提供している料理も、野菜に合わせて調理方法を変えています。農に関わりたいと思う方は「ちょっとした自然」を生活に取り入れるのがおすすめです。」

地元を離れて、農が身近にある秩父暮らしの価値に気づいた今山さん。農をいかした地域の魅力発信はまだ始まったばかりだ。



埼玉県秩父市田村地区

秩父の市街地から少し車を走らせた里山風景の広がる田村地区。高齢化により増えてしまった耕作放棄地の活用が地域の課題となっている。



今山 実穂さん

『KEiNA CHICHIBU』オーナー

ご両親が所有している耕作放棄地を活用し、2022年4月、カフェ兼プライベートキャンプ場の『KEiNA CHICHIBU』をオープン。「秩父の自然に染まり、その自然を食べる」をコンセプトに、秩父市田村で穫れた野菜を生かしたお料理や加工品、農体験を提供している。自身は都内にある自宅から週末だけ家族で秩父に通い、都会と田舎の二拠点生活を満喫中。

Farm Stay
Local Vegetables



Case. 04

① 麦づくり × ② コミュニティ

麦を育てることは、生きる喜びにつながる

育てる「麦」、食べる「麦」、使う「麦」といった“麦のある暮らし”を通して、農に関わる楽しさを伝えている『麦麦クラブ』に決まりごとはない。それぞれが麦を使ってやりたいことをやる、その過程をみんなで分かち合い、楽しむクラブだ。「麦があるだけで、人も集まりやすく、食の大切さも伝えられる。半農半Xで麦を育てる仲間をもっと増やしたいです。」シンプルだけど奥深い麦づくりは、農に関わる小さな一歩になるかもしれない。



麦麦クラブ

「麦」を通じた環を広げたいという想いから『麦麦クラブ』を発足。麦の種まきから収穫まで学べる講座『麦づくし』や麦をつかった料理を提供する『麦麦庵』の運営、各種ワークショップやイベントを不定期で開催している。



ここで紹介した活動に興味をもったら、ぜひ現地を訪ねてみてください。

Case.1



「畑仕事のお手伝いに行こう」
PETIT FARMERS (プチファーマーズ)



<https://www.petit-farmers.com/>

Case.2



「農園のまんなかで、一度しかないオリジナルな1日を」
return to soil with FARM WEDDING



<https://returnto soilwd.wixsite.com/websitefarmwedding/team>

Case.3



「秩父の自然をより近く感じ、より濃密に取り入れる。」
KEiNA CHICHIBU



<https://keinachichibu.com/>

Case.4



「麦づくりを通して食と農の楽しさを分かち合う」
麦麦クラブ



<https://www.instagram.com/mugimugiclub/>

Case.5



「横瀬町の美味しい恵みを味わえるお店」
チャレンジキッチンENgaWA



https://www.instagram.com/engawa_challengekitchen/

Case. 05

① 地元産 × ② 持続可能な仕組み

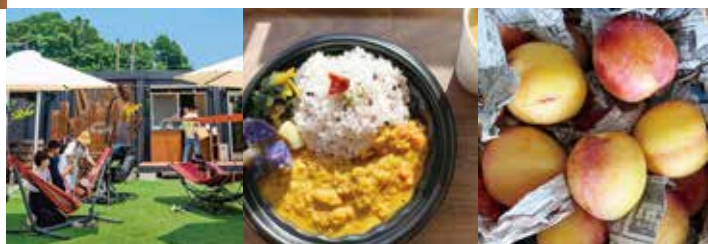
町にある農産物を生かして、地域で循環する仕組みづくりを

「日本一チャレンジする町」を掲げる横瀬町で、地域に新たな循環を生み出そうと結成された地域商社『ENgaWA』。町で生産された農産物や果物が廃棄されることなく農家さんが作り続けられるようにと、季節限定のメニューや長期保存が可能な加工品に生まれ変わらせている。「横瀬は小さな町なので農産物の量も限られますが、その分、旬で新鮮な食材が楽しめます。」ここでしか味わえない食体験は、町の大きな魅力の一つになっている。



ENgaWA

横瀬町の「農」と「食」を繋げていくプロジェクトの拠点である『ENgaWA』には、都心部から移住して農やまちづくりに関わる移住者や地域おこし協力隊のメンバーが多く活躍している。



埼玉の農ある暮らし情報

埼玉県農山村エリアで自然や食などを楽しむなら「グリーン・ツーリズム埼玉」
<https://www.pref.saitama.lg.jp/greentourism/>



埼玉県産農産物の魅力を伝える「SAITAMA わっしょい！」
<https://www.pref.saitama.lg.jp/saitama-wassyoi/>



埼玉での農ある暮らしを検討するなら「埼玉ではじめる農ある暮らしサイト」
<https://www.pref.saitama.lg.jp/nouarukurashi/index.html>

